

東中國キリスト者

障害を共に学び共に担う会



開会礼拝説教

日本基督教団

岡山博愛会牧師 渡辺真一

「天の国を信じて」

マタイによる福音書十九章十三～十五節

「そのとき、イエスに手を置いて祈つて



第一五六号

第34回総会特集号

2022年11月11日発行

いたくために、人々が子供たちを連れて來た。弟子たちはこの人々を叱つた。しかし、イエスは言われた。『子供たちを来させなさい。わたしのところに来るのを妨げてはならない。天の国はこのような者たちのものである。』そして、子供たちに手を置いてから、そこを立ち去られた。』

目次

開会礼拝説教	渡辺眞一	(1)
総会報告	難波幸矢	(5)
病室の妻に「絵の花束」	松岡義人	(8)
会計報告	清水章文	(9)
編集後記	難波幸矢	(10)

新型コロナウイルスの影響が続く中で、顔と顔とを合わせる機会は著しく減つたように思えます。その代わりにウェブ配信等々あたらしい技術が活用される動きは活発になつたのはたいへん画期的なことでした。私もオンライン会議などその恩恵にあずかつている者です。しかしながら、便利な技術ではあっても、やはり

顔と顔とを合わせて過ごすひと時には到底おぼえないものがあることを実感します。今日、キ障共の総会をこの会堂で顔と顔とを合わせて開催できました恵みをあらためて感謝して憶えます。大きな喜びと恵みがこの場所に満たされますことを願っています。

私は岡山博愛会教会に遣わされて七年目を迎えております。この礼拝が始まる前に雑談している中で、先任の牧者は教会の目の前の一級河川旭川のほとりでつくしを探っていたというエピソードを聞きました。なんと平和な風景でしようか。私はつくしではものたらず、泥だらけになつて旭川で手長エビやシジミやウナギを捕つています。そういう人間です。あなたには恵みは十分である。そう神様に語られているような豊かな場所で牧会をさせていただいております。そして、岡山で過ごす七年の中で、多くの方々と出会い、教えられながら、私自身の聖書の読み方や信仰の在り方も随分と変えられました。特に聖書の読み方について

私は聖書を読むときに四つの角度から紐解いていくことを意識しています。第一には、聖書の言葉をそのままに受け止める読み方。まことに基本的な読み方の姿勢であります。第二には、文学的に読む読み方。たとえばザーカイやラザロや律法学者等々、聖書の登場人物に感情移入をし、自分と重ね合わせて読んでいくものです。聖書を他人事として距離をとつて読むのではなく、聖書の世界に自分がいるように読む主観的な読み方です。この読み方も時には大変力強い恵みをもたらすことを実感します。第三には、比喩的に解釈する読み方。主イエスも多くたとえ話を用いて語られたように、聖書には比喩的に記された箇所が少なくありません。例えばヨハネ黙示録もそうですが、逐語的に読むには難しい箇所があります。そういうときには、この箇所はなにを表象しているかと調べ、その本意を受け止めていく作業を行うことがあります。第四には、歴史的に読む読み方。客観的かつ学問的な背景を根拠にして解釈していく読み方があります。時代や地

理や社会背景、また用語や文構造や神学思想など。客観化できるものを可能な限り採用して、聖書を解釈していくという方法です。骨董品の鑑定士が作品を手に取つていろいろな角度から見るよう、これら四つの角度から聖書のことばを受け止めるようになります。どれか一つだけの読み方に偏つてしまふと、それはそれで聖書の豊かさをとりこぼしてしまふことが多いからうと思いつます。どの読み方が多かろうと思うのです。どの読み方にも長所があると同時に短所も含まれているものです。それらの読み方のなかでも、私の学んできた系譜で言いますと特に四つ目の読み方、歴史的、学問的な読み方に偏つていく傾向が私自身にはありました。同時に、一つ目の読み方、最も基本的な読み方である、聖書をそのまま受け止める、ということが極めておろそかになっていたことを気づかされました。岡山で過ごす七年の中で大きく変化したのは、この点です。聖書をそのまま受け止める、ということ。この読み方でなければ読み取れない箇所がはつきりとあるのです。それは、復活、聖霊、神

の国、永遠の命。主イエスが語りまた示したこれらのような事柄は他の三つの読み方では近づきえないものであるからです。私が聞いた話です。牧師として歩まれた方が生涯の最期のとき、後輩の牧師に「僕はな、最後まで復活がわからないんだ」と語ったそうです。そう話された先輩牧師の感覚を私自身も内にはつきりと感じていました。復活、天の国、永遠の命、これらの言葉に信仰的な距離をとつて付き合っていた自分がいたわけです。礼拝」とに「主の祈り」をささげて「御国が来ますように」と言葉にし、「使徒信条」では「永遠の命を信ず」と言葉にしているにも関わらず、牧師である私自身がその事柄に距離をとつてている。それが私の姿であります。聖書の言葉をそのまま受け止めない。それでよく牧師として立たされたなど振り返って恐ろしく思います。七年足らずの岡山での歩みの中で、聖書をそのまま受け止める、ということの大切さを知り、自分自身が拾い上げて来れなかつた恵みをあらためて受け止める者へと変えられました。

今日、お読みいただきました聖句はとてもよく知られた箇所です。この物語の中で、なぜ人々が子どもたちを連れて来たのか、ということを初めに考えてみたいと思います。巷で話題の人がやつてくる、ということで野次馬として人々や子どもたちが集まって来たのでしょうか。聖書にはそうは書いていません。「イエスに手を置いて祈つていただくために、人々が子供たちを連れて來た。」とはつきりと記されています。弟子たちが人々を叱つたとあるように、当時は大人の社会の中に子どもが参入することは良しとされていました。その社会常識を知りつつもあえて子どもたちを連れて來たのであれば、その行為の背後には何か理由があることを察することができるべきです。主イエスに手を置いて祈つていた、だくために。それは癒しや祝福を求めるのことでした。言い換えれば、この子どもたちには癒しがなかつたこと、祝福がなかつたことを示しています。それはつまり、障がいや病を背負つていたり、厳しい不条理を背負つていた子どもたち

だつただろうと理解できます。幼い身にも関わらず重荷を背負つた子どもたち。いや、親や関係者も重荷を背負つて歩んできたのでしょう。加えて社会は子どもにも家族にも「罪人」の一族として蔑んでいたことでしょう。主イエスの前に子どもたちが連れて来られた。それは、この世の不条理が神の子の前に訴えられた光景であったのです。主イエスはそこで何とこたえられたか。「子供たちを来させなさい。妨げてはならない。」と言つて、一人一人を受け止めていかれます。そして「天の国はこのような者たちのものである。」と語り、その御手を置いて祝福します。癒されることも祝福されることもなく罪人として定められた人々が背負う「世の不条理」に対し、主イエスは「天の国の約束」で応えていかれたのです。この子どもたちへの最良の業が、天の国を約束し温かな御手を置くことだけです。「天の国」について無関心や否定的な思いを持つていれば、主イエスの応えに祝福を見出すことはできないでしょう。しかし、「天の国」を信じる

者であるならば、この約束は世の不条理を越える希望に満ちた祝福であるのです。この子どもたちだけではありません。聖書を読んでいきますと主イエスの歩みはいつも「不条理」に近づいて行かれます。そして、そこで天の国は近づいたと語つて行かれます。主イエスにとって、天の国はあつて当たり前、前提の事柄であつたのです。そして、そのことを信じる者にとって、主イエスは決定的な救いの恵みを与えていったのです。

主イエスがそつまでして語り伝えていくことばをどうして私は受け止めてこなかつたのか。振り返つてそう感じるものです。「神様、なんでこの人が、なんでこの子が……」と神に問う出来事はいくつもありました。実はすでにその問い合わせに主イエスがこたえていたのです。ルカ福音書にも終生病を患い、物乞いとして生きたラザロの死について主イエスが語っています。神はラザロのために天で宴席を開いてまつさきに彼を迎えて祝福している光景が示されています。この世界で不条理を背負い生きた一人に対しても

神はたえず見守り、必ず報いてくださること。その恵みの場が天の国にある、ということを主イエスは教えています。そまでして語り続けられる天の国の事柄を、私も試しに一度そのまま受け止めてみようと思い信じてみました。すると、信じたという一点からあふれ出てくる多くの恵みがあることを気づかされました。天の国がある、永遠の命がある、このことを信じるとき。死という大きな壁の前にあっても、その悲觀と絶望を超えていく命の景色が広がります。解放への希望、再会への希望、永遠への希望、様々な希望が死の先にも置かれていることを見出していくことができたのです。また、不条理という動かしがたい現実の前にあっても、神がその痛みをすべて受け止め、必ず報いてくださると希望を抱くことができるのです。死さえも生涯を支配することではなくなった。いわんや、世の何ものも恐れるものではなくなつていったのです。心の中に潜む恐れや苦悩の根源が取り払われる力がここにあることを知りました。わたしのために、そしてこの人

のために、神がいつまでも共にいてくださる。この最後まで失われないものをこの胸に実感できたのです。「信仰と希望と愛、この三つはいつまでも残る」という聖句がスッと心に収まった時でした。天の国を信じる事。そこからあふれてくる恵みがこれほどとは思わなかつたのです。そこにはただ信じるだけでとどまるず、人の生きる方向を大きく変える力があることを確かに知つたのです。今では、主イエスが語られた天の光景の広がりを深い感謝と讃美をもつて喜んで受け止めている者であります。

私たちが歩む道のりの中には、様々な不条理と出会うときがあります。自分自身の事柄の時もあれば、愛する人の事柄の時もあります。その痛みを背負う時、私たちも主イエスが温かな御手を私たちにも置いてくださり、天の国はこのようにも置いてくださり、天の国はこのようこのキ障共のお働きに感謝いたします。

その尊い業を通して、世にある一人ひとりに神からの信仰と希望と愛とがこれからも届けられていますようにお祈りいたします。



かかれているでしょう。ではこの命をどのように生きるべきか。天の国はある、この視座から世に生きた主イエスは、神の愛を人々に示すためにその命を尽くされました。信仰者の歩みの道もここにあるのです。彼岸的希望に依存して、世の不条理への諦念に生きるではありません。主が世に歩まれたように御国をこの地に実現する働きへと私たちは遣わされています。悲しみや苦悩を通して神を知る人々が一人でも減り、愛や喜びを通して神と出会う人々が一人でも増えていくのです。

総会報告

会長 難波幸矢

のべでしたが総会成りしなりました。

総会資料は既にお送りしてますので、お読みなさいたの方々の

2年続けて書面継続でした。約数年、

修養会も講演会も開けないままでした。

せめてシャローーだけはがんばれいと、福島の原発事故後の真実なニュースや、各教會の「ロナ禪」の様子を書いて頃へなどトト夫を隠したり、役員会での読書会がとてもありましたので掲載したり、それなりに頑張つてしまつましたが、やはりなんどなくアバウトになつていました。

十一月の役員会でハタと戻つたら総会が田舎で、とにかく深内と委任状を持ち込んで送りました。しかし一年間の報酬をまとめて次第でした。臨機応変にせざる仕事を受け取つてから返信を出すにも期間が無かつたのではないか。申し訳ありませんでした。でも臨機応変力して下さい、委任状は一人分集まつました。現在170人くらいの会員ですか、規約によつての1は34人。出席者は

ので、岡山市身体障害者西大寺地区の役員をしてもらいます。新しく入る人に手帳をかねるのですが、中途障害の人と初めから

の入るグループあります。戦障の人

10時に総会を開き、礼拝を命めて12時までの「ロナ禪」の懇親会でした。

したのでもう少しあとは話せませんが、やっぱり集まるに同じ顔を見ながら語せねといふのはよこです。どちらも和やかでした。

●那須 小田の渡辺先生の説教で子供たちの體操を考へて、新しい版のものが

ありました。私は何回も治療したので田舎生徒は向ひか出来てきました。シヤローーの編集を約1年間担当しました。何かとやつてこまわが「これもよく」といふ聲が近づき的な状況です。

●清水 障がい者手帳を持つてします。「どうが?」と聞かれますが、心臓弁膜症です。以前は障がい者年金と障生年金と両方受け取れていたのですが、制度が変わった現在は障生年金のみになつました。

キ障がい思ひ事は、現在実際に障害を負つた人が入会して一緒に交わると、これが無い事です。健常者のみ集まつてスイとじつ感じです。全国キ障協の方は、例えは「みのの「スマイル」の小田嶋さんは、またく足が曲がらない人で、木テルも私たちとは別木テルにしないと

いかなかつたし送迎も特別でしたが、集まりました。一緒に記録できました。教会JLN障害者との交わりがあつたのですが。

●渡辺

一人の方の事を語りました。1人は東北の巻栄光教会でのJLNですが、災害の時、多分統合失調症だと感じましたが、入り浸つてきました。口羅口の礼拝の時、いつも口羅口でババーなど懸念をつけて、「育て方が悪い」「親のせいだ」と。ぐるりの家に学ぶ体験をしました。かつて一人視覚障害の方の場合ですが、結婚してから4歳の女性の方でした。京都で訓練を受け、暖かく教会に受け入れられました。

●山本 娘が発達障害4級で語りたいが上手くできません。知的障害もある小学校の中レベルです。統合失調症もあります。懸念もありますが今は落ち着いています。困るのは統合の方ではなく発達の方です。理解できないのに「はい、分かりました」といつのまに。食事も一人にお膳にしておかないところなど、満腹感が無くてのむばかり

で食べる。懸念と思わなくてやつてしまつた。一緒に記録できました。教会JLN障害者との交わりがあつたのですが、JLNが「ロナ」になつて利用であります。緊急でないと頼みつけられません。今のが課題はそれだけ。障害がこの障害紹介証からいつの段階なので、シマートベイティは14日に行かねばすなのになります。先の事を聞いてると娘の方が長く生きるわけですが、1日半の個別対応で物に行つたり、すつと食べて呑んでたりする。施設が無理かといつたやうでその後どうなるか。口羅口の教会を沂いのか。懸念があります。

●佐々木 現在開拓伝道をしております。お隣公民館で集会をしています。また岡三超説派の祈祷会に出席してきました。恵まれてきました。また再び運動回復会を作つてきました。難波さんの文章は出来の運動になつてきました。障害者運動が立つかしくなりの分かれ田舎でつづれ。

田舎の。シャロームは尊い侶を置いて作つて下さい。ハーバルギーを注がれて下さい。私は病院になつて向むでめだくなつた業を全部止めました。長男がパーキンソン病でないと頼みつけられません。今のが課題はそれだけ。障害がこの障害紹介証からいつの段階なので、シマートベイティは14日に行かねばすなのになります。先の事を聞いてると娘の方が長く生きるわけですが、1日半の個別対応で物に行つたり、すつと食べて呑んでたりする。施設が無理かといつたやうでその後どうなるか。口羅口の教会を沂いのか。懸念があります。

●片山 私の行つての教会は聖靈派の教会で、牧師がそのカバーを打ち出しました。異端を唱えられる信徒ではないのですので来ました。2011年から十障害を預頼つて生れています。御頼ねされて生きています。

●佐々木 現在開拓伝道をしております。お隣公民館で集会をしています。また岡三超説派の祈祷会に出席してきました。恵まれてきました。また再び運動回復会を作つてきました。難波さんの文章は出来の運動になつてきました。障害者運動が立つかしくなりの分かれ田舎でつづれ。

役員会報紙の中にある「精神障害と教会」についてあります。リード日本です。日本に住む在日韓国人です。日本語の方がスムーズです。3年前から登教指導です。難波さんの働きを中止して

たかつたのですが、24年前、夫がスカイスポーツで転落。頸椎損傷、脱臼骨折で全マヒ。首から下が動きません。ずっとおじいちゃんがしてくれなくて訪問看護師の手を借りて在宅介護です。本当に辛い事ですよね。手がかかりすぎるしもうつてくれない公的なものつて。夫を残して死ねません。死んではならん、死んではならんと言ひ聞かせながら生きてきました。初めは車いすで大原美術館や紅葉の時には外へ連れ出しました。今は出来ません。ただ夫は頭はやられなかつたので何でも分かります。かえつてそれが辛い面もありますが。私は今は大病はしていませんが介護つつになりました。ヘルパーさんも看護師も息子の嫁も、私の入院は認めるが手がかりすぎる本人は看れないといつ。現在訪問看護師の手を借りてますが、ヘルパーさんは高齢化。仕事の割にお金が安い。国策で重い病人を病院が看ない。家で看なさいと。しかもヘルパーさんは医療行為をしない。夫に「あんた、私を幸せにする言つたが」といひ、「おやぢ」と。田曜日の礼拝にいた

けは行ました。奏楽をしてあげました。本当にしつらひました。夫が嚥下能力がなくなりたので、高栄養のスープを入れ、喉からはプリンやゼリーを食べさせましたが、点滴800カロリー、喉から400カロリーで栄養が足りず逆睡になりますが、先ほどの山本さんのお話よく分かれています。夫が旅立つまで生かされるように祈る日々です。

● 難波 1980年(昭和55年)のキ障共をスタートさせて34年になります。実際にたくさんの事をしてきました。手作り音楽会は20回(年)やりました。倉敷教会で始まり倉敷教会で閉めました。おしゃべり会や川柳を楽しもう会など。ブドウ狩りや梨狩りなどはバスで鳥取まで出かけ、用瀬教会で合流。鳥取側の会員が待つてくれていて、一緒にブドウを食べ、梨を頂いたものです。講演会や修養会など泊まり込みの会が出来ていたのですが、いつの頃からか「泊がしんどい」というようになり、それぞれ岡山、鳥取の地で開くために講師に移動して頂くなど工夫もしながらこなしていました。

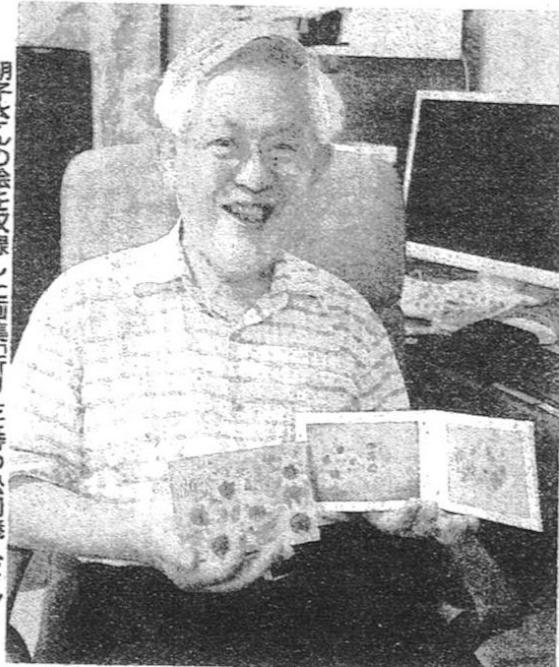


今後のある「」の時に考案していく時となりました。ただ何としても、私たち一人一人に示された「神は愛であり赦しであり恵みである」とこのことを伝える群衆が真ん中に」とは、教会の入り口付近でイエス様をのぞき見していた障がい者にして「おいで来なさい」と言われて、勇気を出してイエスのこの教会の真ん中に進み出る」とが出来た彼(彼女の)勇気をともにしたじ所から出しました。図葉です。

19) 地域総合 2022年(令和4年)8月27日 土曜日 三 本 湘 新 墓

新型コロナウイルスの感染拡大以降、病院では面会制限が続いている。頻繁に会うことができない中、鳥取市在住の男性が、アルツハイマーで入院する妻に向けて四季折々の花の絵を収録した画集「祈り」(小取舎)を刊行した。病室に届けられた一冊の『絵の花束』が、コロナ禍の夫婦の絆を温かく結んでいる。

(高坂綾奈)



朋子さんの絵を収録した画集「祈り」を持つ松岡義人さん

松岡朋子画集「祈り」と表紙
「ありがとうともこへ」

病室の妻に「絵の花束」 鳥取の松岡さん・画集「祈り」刊行

がとう」と返事が届いた。

手紙が50通を超えた昨年12月、出版や編集を手がける小取

男性は鍼灸師の松岡義人さん(81)=同市国府町分上。50年以上連れ添った妻の朋子さん(81)がアルツハイマーと診断されたのは2015年のこと。徐々に忘れっぽくなり、自分のことが自分でできなくなつた。症状が進行するうち、昨年4月、朋子さんは突然体調を崩し入院した。

朋子さんに読み聞かせ、返事の代筆もしてくれた。回を重ねるごとに朋子さん自ら筆を持つようになり、震える文字で「あり

「ありがとうございます」ともこへ」を作成。お世話になった人たちに配った。

「ありがとうございます」ともこへ」を作成過程で、約20年前に朋子さんが公民館で受講した「ファンタジック水彩画」の原画24点が自宅から見つかった。季節の花々が描かれた色鮮やかな絵の数

々…。月2回は病室に花を届けているが「いつでもきれいなものに触れられ、心が和むように」と、今度は朋子さんの絵を収めた画集の作成を計画した。

日常的に持ち運べるように画

集ははがきサイズにし、表紙には青空の下で咲くヒマワリの絵。約30年前に夫婦で旅行したウクライナの風景を描いたもので、画集のタイトルは不戻の願いも込めて「祈り」とした。

出来上がった画集は朋子さんの病室に届けられた。ある日、看護師から「病室にお花のないときはこれを広げて季節の花を見ておられますよ」と教えてもらい、「本を作った効果があったのかな」と松岡さん。

画集は400部作り、交流のある人たちにも配布。ウクライナ人道危機救援金として日本赤十字社に寄付するため、1冊につき100円の募金をお願いした。

松岡さんは「コロナというものがなかつたらこの画集は完成しなかった。だって直接会つて話せるんですもの。コロナだからできただとかな」と話す。

夫婦の絆から生まれた小さな画集が、コロナ禍の新たな交流の在り方を示してくれている。

コロナ禍、夫婦の絆結ぶ

会 計 報 告

2022年9月～2022年10月

会計 清水章文

収 入		支 出	
会費(55名) (会費累計104名)	110,000 (222,000)	シャローム	6,755
		印刷関係 156号発行	6,755
		会議費	4,000
献金	1,000	交通費 役員会(9/15)	2,000
		会場費 役員会(9/15)	2,000
		事務消耗品費 振替通信・払込料金	888
小 計	111,000	小 計	11,643
前月より	841,141	次月へ	940,498
合 計	952,141	合 計	952,141

〔会費・献金の納入を、感謝申し上げます。〕

個別の領収証を希望される方は、遠慮なく
お申し出ください。従来通り送付いたします。
よろしくお願ひいたします。

(敬称略・順不同)

10月末現在資金残高	
定額預金	500,000
普通預金	241,356
振替口座	135,979
現金	63,163
合 計	940,498

(年会費)

(日キ岡山博愛会教会)山本洋子、清水洋美 (日キ旭東教会)栗原正、宇野稔、
成本書子、那須清美、脇本泰・光代、森言一郎・美樹 (日キ豊島岡教会)濱田美也子
(日キ岡山信愛教会)清水章文 (岡山神召キリスト教会)佐々木祐二
(日キ鳥取教会)20名分 (日キ岡山教会)今城信子、藏知武、佐々木まゆみ、
洲脇慶輔、富田茉莉子、橋本まり子、畠起三郎、浜井昭代、堀恭次・幾美、三浦裕子、
望月英子、山口明・弘子、尾島夫規子 (日キ湖山教会)岡田由美子、田口久恵、
諸家香代子、森田生子、岩佐洋子、前田美喜子、山内栄子、森下久美子、久野芳枝、
前田恵、伊井尚子

(献金)

佐々木祐二(岡山神召キリスト教会)

以上

一編集後記

難波幸矢

メリーカリスマス!!

愛するキリスト教員の皆様、いかがお過ご
しですか。今年ももう数日になりました。
今年は特に辛い年でしたね。いつも世界
のどこかで戦いが続けられ、繰り返され、
人々はなぜ悲しい辛い戦いの歴史から学
はないのか、平和を切望しないのか、その
ために全力で向き合わないのか、相手に対
して積極的でないのかなどと思いをめぐ
らしてきましたが、2月24日、いきなり
ロシアによるウクライナへの侵攻。なかなか
か收まらないばかりかジワジワと侵略は
深まっています。あの美しい広々とした豊
かさを感じさせるウクライナのあつちこ
つちが見るも無残な状況と化しています。
寒く暗くひもじい辛い思いと、離れ離れの
家族への思い！なに一つとっても私たち
日本にいる者の想像を超えたものでしょ
う。平和を切望いたします。だからと言つ
てここぞとばかり防衛費増額は岸田さん
のやりそうなことですが、それへの反対の
無さこそが呆れます。武器を持つものは武

器で滅びます。しかも科学技術の発展から
無残に滅びます。ここでこそ被爆地日本は
踏ん張らないといけないとと思うのですが。
辺野古はもういらないとアメリカが言
つていて、しかも川柳では「割り箸も楊枝
も立ぬマヨネーズ」と揶揄された所に、
そちらに国民の目を向けさせている間に
宮古島、石垣島、奄美大島など南西諸島に
自衛隊ミサイル基地が建設され、ますます
執着、増額、超年して作り続けている日本。
軍事強化の姿勢が出来ているという状況。
宮古島は既に基地設備弾薬庫もほぼ完成
して稼働している状況。昨日のNHKニュース
では米軍の車がそこだけそこだけと
ばかりに走っていましたね。信頼する「ば
いかじ」八重山／宮古宣教センター通信
によると本当に怖くなります。

私たちはやはり声に出して「ノー！」と
発信しなければなりません。黙っていては
いけません。教会で、地域で、グループで
おかしいことをおかしいと言わねばなり
ません。声に出さなければなりません。

皆さま良い年をお迎えください。！！

8ページに掲載の松岡さんは前鳥取支部長
です。現支部長の幾野さんが新聞を送って下
さいました。NHKでも12月半ばに中国地区
版？か全国版？で報映されました。



発行日	二〇二一年十二月二十一日
「シャローム」	第一五七号
発行所	東中國キリスト者
事務局長	難波幸矢
加入者	「東中國キリスト者」
電話	〇八六一・七六一・四六七
振替	〇三一〇〇九〇七六九
郵便番号	四七〇三一八二五五
岡山市中区倉田六五八一八一	

